

平成29年度事務事業評価シート(28年度実績)

◎基本情報

事務事業名	国際・国内交流推進事業		担当部署	市民環境部 文化交流推進課 経済建設部 観光振興課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	なし		
基本政策(大項目)	1	うきうき活力と魅力あふれるまちづくり	事業 期間	開始	昭和	49 年度
政策(中項目)	2	伝えたい 魅力あふれるまち なんと			終期	未定
(小項目)		国際・国内交流				
施策	2	国際・国内交流の推進				
基本事業	1	交流のひとづくり				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市民及び姉妹都市をはじめとする友好都市						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	鳴門市と姉妹都市をはじめとする友好都市との交流を推進することで、市民同士の相互理解・国際理解を深め、それぞれの都市との友好関係の強化を目指す。						
事業計画	28年度に何を計画していたか	・第21回リューネブルク市親善使節団の受入れ ・中国友好都市などとの交流を図る。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
		使節団新規参加者の割合 リュ市／鳴門市	57	55	60	58	60	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	第21回リューネブルク市親善使節団を迎え、日独市民交流会などの滞在プログラムをとおして両市民の友好交流の場を創出した。また、市内の中学2校・高校1校の協力を得て、リューネブルク市青少年のホームステイや授業参加を行い、若い世代の交流も深まった。 張家界市人民代表大会主任をはじめとする訪問団が来鳴したほか、張家界市で開催された中国国際旅行商大会への参加、鳴門日中友好協会会員とともに張家界市を訪問するなど交流を深めた。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 親善使節団参加者数 リュ市／鳴門市	33	52	35	35	35	人
	2 使節団への学生の参加者数 リュ市／鳴門市	12	12	12	12	12	人
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	使節団新規参加者の割合 リュ市／鳴門市	66	62	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)		112.7	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり			

(千円)

財源内訳	平成28年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額	0	0	0	0	2,906	2,906	
		補正予算額	0	0	0	0	998	998	
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0	
		全体予算額	0	0	0	0	3,904	3,904	
		決算額	0	0	0	0	3,175	3,175	
		繰越額	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)		総人件費		総事業費		
		3.0	0.0		21,399		24,574		

事業費推移	年度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	2,874	3,175	5,320	2,136	3,337
	うち一般財源	2,874	3,175	4,320	2,136	3,337
	人件費	10,289	21,399	21,399	21,399	21,399
	総事業費	13,163	24,574	26,719	23,535	24,736

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		滞在プログラムを通して市民同士の交流を創出するとともに、青少年のホームステイや授業参加により国際理解の醸成を図った。
	効率性	B:概ね効率的だった		使節団の短い滞在期間の中で、多くの市民に国際交流の気運を高める機会を創出できた。
②成果に対する評価	指標名	使節団新規参加者の割合リュウ市/鳴門市		前回に続き、リュウネブルク市から青少年12人を含む多くの使節団が来鳴し、そのうち新規参加者が6割を超え、交流の広がりを見せている。
	目標	55	%	
	実績	62	%	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		B		リュウネブルク市から多くの親善使節団が来鳴し、あらゆる世代で多くの両市民が交流を深めることができた。また、張家界市との交流も促進されている。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	<p>これまで第一線で交流に参加していた市民の高齢化が懸念される。そのため、使節団の青少年参加については、両市ともに姉妹都市交流にとって重要であると考えており、今後も継続の見込み。また、近年ヨーロッパの治安情勢が不安定なこともあり、使節団の派遣に際しては、参加者の安全を最優先に最新の情報を注視する必要がある。</p> <p>友好都市提携を締結して5年を迎えた張家界市との更なる交流を図るため、人材交流や観光資源等を活用した情報発信など友好交流促進への取組が必要である。</p>				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	<p>第22回鳴門市姉妹都市親善使節団を派遣し、リュウネブルク市民と交流を深める。青少年派遣を継続して行うとともに、市民にも参加を積極的に呼びかける。</p> <p>日中国交正常化45周年を記念した「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会」へ張家界市とともに出場し、両市民に友好都市として親しみを持ってもらう。</p>			
	H30年度	<p>第22回リュウネブルク市親善使節団を迎え、鳴門市民との交流を深める。青少年参加者については、市内の中学校・高校での授業参加やホームステイを行う。</p> <p>張家界市との友好交流については、引き続き情報発信等を行うとともに、様々な分野において交流が図れるよう検討を行う。</p>			